

図-3 研究フロー

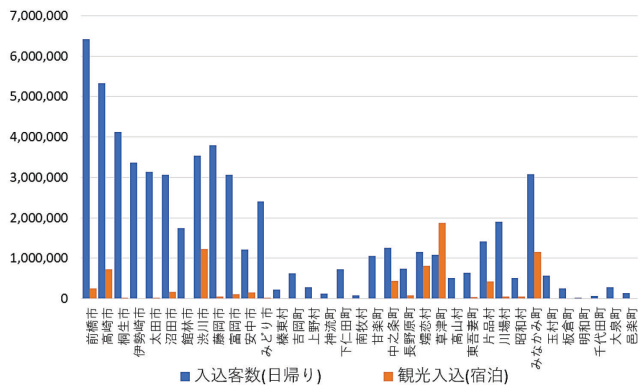


図-4 市町村別入込客数 (2015年、人)

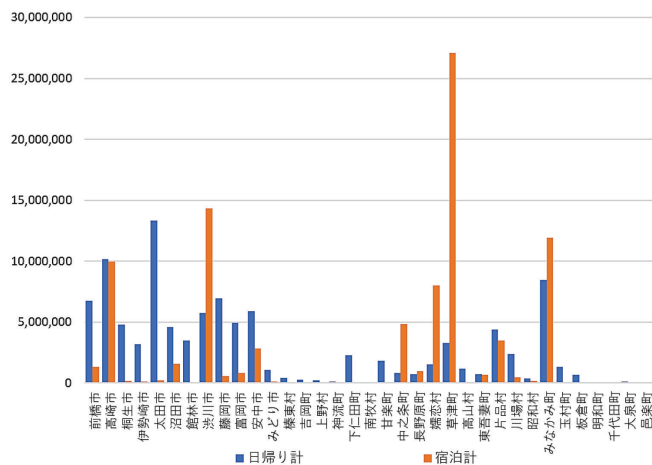


図-6 市町村別観光消費額 (2015年、円)

3. 研究のフロー

本研究のフローを図-3に示した。群馬県全体の観光入込客数の分析、観光や魅力に関する分析を行い、重回帰分析により観光入込客数を説明するモデルを作成し、ハッ場ダムおよび関連施設が整備された場合の入込客数を推計する。

4. 観光入込客数の分析

市町村別の入込客数は、群馬県観光局観光物産課による2015年観光客数・消費額調査(推計)のデータを用いる。群馬県35市町村別の入込客数を図-4に示し、観光消費額を図-6に示した。

表-1 観光資源

説明変数	一般的な観光	1.山岳
x		2.岬・峡谷・渓谷(+隘谷)
		3.滝・鍾乳洞
		4.高原・湿原
		5.湖・沼・池
		6.河川
		7.岬・半島
		8.海岸・砂丘
		9.島
		10.温泉
		11.神社
		12.寺院
		13.庭園・名園
		14.歴史上有名な合戦場
		15.美術館・博物館(+天文、鉄道、子ども、昆虫、植物、命)
		16.文学館・記念館・有名人物の記念館
		17.文学作品とその舞台
		18.テーマパーク
		19.祭り・年中行事・民謡・料理・名産品・ユネスコエコパーク・ジオパーク
		20.陶磁器の特徴と産地
		21.日本の世界遺産・ラムサール条約湿地
		22.国立公園
		23.固定公園
		24.海域公園
		25.文化財
		26.特別天然記念物
		27.知っておきたい名数
		28.城・城跡
		29.旧国名が使われている主な地名等
		30.都道府県と県庁所在都市
		31.日本の百選

市町村別の入込客数では前橋市、高崎市などでは日帰り入込客数が多く、渋川市、草津町、みなかみ町等では宿泊による入込客数が多いことがわかる。都市部で日帰りの入込客数が多い要因として考えられるのは、都市周辺地域から都市観光に来ている入込客が多いことが考えられる。その一方で宿泊入込客数が多かった地域には観光地があることが要因として挙げられる。ハッ場ダムがある長野原町は都市部や観光地に比べ日帰り入込客数、宿泊入込客数共に少ないことがわかる。

5. 観光の魅力の分析

群馬県の観光と入込客数の関係を捉えるために入込客数と一般的な観光資源、その他の観光資源をもとにデータベースを作成する。一般的な観光資源は旅行業実務シリーズ4 国内観光資源2017(JTB総合研究所)のカテゴリーを参考にし、31項目とする。その他の観光資源については、一般的な観光資源に含まれない、SNS等によるものとする。

参考文献

- 1)小竹輝幸, 梶原康至, 望月優, 野津直樹: 経路検索条件データを用いた全国観光アソシエーション分析～周遊圏から見出す地域の観光戦略～, 土木計画学研究発表会・講演集, Vol.54 (166), 2016
- 2)溝上章志, 朝倉康夫, 古市英士, 亀山正博: 観光地魅力度と周遊行動を考慮した観光交通需要の予測システム, 土木学会論文集, No.639, V-46, pp.65-75, 2000